福岡教育大学紀要，第62号，第４分冊，95―107（2013）

幼児期における民主主義への教育（Ⅲ）
― Willy-Althof-Kindergarten における実践―

Erziehung zur Demokratie im Vorschulalter（Ⅲ）
― Praxis im Willy-Althof-Kindergarten ―

船　越　美　穂

Miho FUNAKOSHI
幼児教育講座

（平成24年10月１日受理）

はじめに

バイエルン州全域の幼児教育施設の教育要領として拘束力をもっている「就学前施設の子どもたちのためのバイエルン陶冶―訓育計画」(Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung, 以下 BEP と略）では，「教育施設における出来事への子どもたちの協力（参画)」を実践の重要な原理としている。拙著「幼児期における民主主義への教育（Ⅱ）―『バイエルン陶冶―訓育計画』における『参加』(Partizipation) の思想と実践―」[1] では，BEP に示された子ども達の参画のための条件，形態，幼児の参画を促すプロジェクト等を分析することを通して，次のことが明らかになった。

①多民族国家のドイツでは，子どもたちに，対立を話し合いによって解決できる力を身につけさせ，将来の民主主義社会の一員として育てることは，国の将来をも左右する重大な任務である。

②民主主義を理解し，民主主義をつくる力は，実際に自分に関係する出来事に参画し，仲間と討議し，共同で決定することのできる体験の中でこそ培われる。

③幼稚園は，生きられる日常の民主主義を，参画をとおして，子どもたちに体験させる責任を負っている。

このような使命を担って BEP では，幼稚園での日常生活における会話や朝の会，子どもたち自身が積極的に関与するプロジェクト，さらに子ども会議などの果たす役割と重要性を示し，現場での実践を促している。では，以上のような BEP において示された子ども達の参画に関する基本原理をもとにして，バイエルン州の幼稚園では実際にどのような実践が行われているのだろうか。本論ではこの問題について，筆者によるミュンヘンの公立幼稚園における実践の観察，園長や教師へのインタビューを通して明らかにする。

Ⅰ．幼児教育施設における子どもたちの参画

１.「参画」とは

拙著「幼児期における民主主義への教育（Ⅱ）―『バイエルン陶冶―訓育計画』における『参加』(Partizipation) の思想と実践―」において既に述べたが，ここであらためて BEP における参画の概念を明らかにする。

BEP によると，子どもたちの参加する権利は，「国連児童の権利条約 第12条」，「社会保障法典 第８項第１段」(Sozialgesetzbuch)，「バイエルン州乳幼児教育―保育法 第10条第２項」(BayKiBiG)[2] にもとづき，保障されなければならない。つまり教師は，子ども達の参加が国際的にも，ドイツ国内的にも法的に明確に保障されていることを自覚しなければならない。ここで留意するべきは，BEP では，子どもたちは参加する権利を持っていると同時に，参加しないことも権利として認めている点である。このことに関して次のように記されている。

子どもたちは発達に応じて，自分たちに関係しているすべての決定に参加する権利を持っている。しかし同時に参加しないことも権利である。権利を行使するという子ども側の自由意志に対して，子どもたちを参加させ，参加することへの関心を呼び起こすという大人の責務が対峙している[3]。

つまり子どもたちにとって，参加する権利の行使は彼らの自由意志に委ねられているが，大人側は子どもたちを参加させ，関心がもてるよう援助する責務を担っているのである。

BEP において，参加（Beteiligung）とは，協賛・協力（Mitwirkung），共同形成（Mitgestaltung），共同決定（Mitbestimmung）という意味合いの参画（Partizipation）という意味である[4]。つまり，参加（Beteiligung）は協力関係（Partnerschaft）と対話・話し合い（Dialog）に基づいている。したがって，参画する（Partizipieren）とは，自分や共同体の生活に関わるすべての事柄に関する計画や決定を分かち合うと共に，懸案の諸問題の解決策を共同で見つけることなのである[5]。参画することは，意志形成プロセスが共同で行われ，当初期待していたのとは違った結果になる場面でその性質がクローズアップされるのである。子どもの参加とは，自己決定と共同決定を含んでいる。すべての子どもたちは，自分自身の利益に関する関係者及びエキスパートとして，教育や施設に関する立案，討議，決定プロセスに定期的に加入される。その際，内容や進行への影響力の行使が子ども達に本気で与えられる。大人と子どもが共同で計画し，決定に関わる時には，対立が発生するだろう。しかし，BEP では，対立は発達と改善へのチャンスとして理解されている。BEP では，どの年齢の子どもでも，彼らに関係するすべてのことに関して参加することは可能であると言う[6]。BEP によれば，年齢は参加形態に対しては役割を演じるが，参加自体に対しては弊害にはならない。ここで私たちが注目すべきなのは，対話による参加が，言葉によるやりとりに限定されるのではなく，観察することや相互作用もここでいう対話の一部とみなされている点である[7]。したがって，求められるのは大人側の受容力なのである。子どもたちが年少であればあるほど，彼らが発する信号を敏感に察知しなければならないし，彼らの身振り言語も顧慮されなければならない。子どもたちはしばしば大人が考えている以上に多くのことをやってのけることができる。適切な援助があれば，彼らは日常生活を自覚し，目標に向かって協力することができる。彼らは自分たちが取り組んでいることを非常に正確に言うことができるし，問われれば，考えやイメージを表現し，自分の言葉で具体的に述べ，行動に移すことができる。

BEP によると，幼児教育施設における子どもたちの参加は，民主主義へのルールへ導き，初期の政治教育の重要な機会になる[8]。なぜなら民主主義とは，市民による社会参加によって生きているのであるから。子どもたちが多くのプロセスへ積極的に関与されるとき，民主主義の能力を拡大することができる。幼児教育施設の守られた公共性は，民主主義の学習のための理想的な経験及び練習の場なのである[9]。

2．参画における陶冶及び訓育目標

子どもは施設において自分の生活に関わる決定に参加する。子どもは発達に合った責任を引き受けることができるようになり，生活空間や社会的近接空間を積極的に共同でつくる。子どもは自分が影響を及ぼすことができるという確信をもち，時が経つと共に以下のように民主主義的参加への能力と心構えを獲得する[10]。

社会的コンピテンシー

■自分の見解（感情，要求，利害，望み，判断，意見）を認識し，言葉に表し，説明し，主張する。
■他者の見解を認め，尊重する。
■自分の利害と他者の利害を調和させる。
■人間相互間の対立を公平な討論によって決着をつけ，解決へ導き，建設的な対話，論争文化，ならびに対立の適切な管理のために必要な能力とテクニックを獲得する。

民主主義的参加への能力と心構え

■懸案の諸問題を解決し，共同決定するための基本的理解力を獲得する。
■話し合いと投票のルール及び話し合いの規律（静かに座っていること，注意深く聞くこと，静かに聞くこと）が分かり，応用する。
■自分の立場または意見を提示して，よく考えること。
■他者の意見をよく聞いて，尊重すること。
■様々な利害や意見が出た際には，歩み寄って，妥協し，共同で利害の調整を目指した解決策を討議して決めること。
■自分の意見と利害がうまくいかなくなっても（フラストレーション耐性），多数派の決定に従うことで折り合いをつけ，耐え抜くこと。
■周囲の環境に影響を及ぼし，課題を達成し，何

かをもたらすことができ，そして後にはこのことへの責任を負わなければならないということを経験すること。つまり次第に自覚的に決定することを学ぶこと。

■民主主義的に討議して決めることに確信を得ること。

■多数派による決定と少数派の保護に関するルールと構造について理解すること。

■子ども達が権利を持っていることの基本的理解を促し，擁護すること。

■共に生きていくためのルールの重要性及び改変が可能であることを知ること。

■行政や政治との最初の出会いを経験すること。

責任を引き受けることへの能力と心構え

■自分と他者のために責任を引き受け，他者の模範になること。

■自分と共同体の利益の代表であることを自覚すること。

Ⅱ．Willy-Althof-Kindergarten における子ども達の参画

1．園の概要

Willy-Althof-Kindergarten は，1996 年 3 月 に Willy-Althof 財団の出資によって開園されたミュンヘン市立幼稚園である。幼稚園は Neuhausen 区域の静かな新興地域にある。建物には Willy-Althof-Kindergarten（Lily-Braun-Weg14） 及 び 別の市立幼稚園（Lily-Braun-Weg16）が同居しており，台所によって結び付いている。通常は別々の保育をしているが，園庭は 2 園によって共有されている。

Willy-Althof-Kindergarten は， 定 員 65 名 で 3 クラス編成，そのうち 1 クラスが統合保育を行っている。子どもの年齢は満 3 歳から就学までで，ミュンヘンの他の公立幼稚園と同様に異年齢によるクラス編成である。異年齢保育はミュンヘンのみでなく，旧西ドイツ地域の幼稚園の伝統なのである。クラス編成は次のような 3 タイプに分かれている[11]。

表 1.　Willy-Althof-Kindergarten のクラス編成

クラス	保育時間[12]	定員	職員構成	備考
ビーバークラス （Bibergruppe） 全日保育	8:00-17:00 （金曜日は 16 時まで）	25 名	3 名（副園長，保育士，パート教師）	
カメレオンクラス （Chamäleongruppe） 全日保育 （統合保育クラス）	8:00-17:00 （金曜日は 16 時まで）	15 名	4 名（園長，教師，保育士，特別支援担当教師） 兵役代替社会奉仕勤務者	3 名が特別な支援を必要な子ども
いもむしクラス （Holzwurmgruppe） 半日保育	8:00-14:00	25 名	2 名（教師，保育士）	

2．教育上の重点事項

(1) 統合保育（Integration）

Willy-Althof-Kindergarten の最も大きな特徴は，統合保育（Integration）を実践している幼稚園だということである。園のコンセプトを示す冊子では次のように記されている。

本園は，地域で生活しているすべての子ども達に開かれている[13]。

この園では，統合（Integration）をすべての子ども達による共同の遊びと学びととらえている。つまり，障害児，健常児，困難に陥っている子ども，多文化及び多言語を背景に生活している子ども達が，一人ひとりの能力と要求に配慮されながら，互いに協力し合い，相互作用しながら，共通の主題や内容にかかわっていくことが目指されている。園では選別や除外は人間の可能性を制限し，非人道的であると考える。この幼稚園が一貫して統合保育に取り組む背景には，多様性（Vielfalt）への信頼があり，ここにすべての取り組みが根ざしている。

私たちは多様性（Vielfalt）が子ども達の発達と学びにとって必要な条件であり，刺激であると考えている。これはあらゆる子ども達―障害児，健常児，ドイツ出身の子ども，及び他の国々や文化的背景をもつ子ども達にとっても有効なのだ。だから私たちは統合的に活

動するのである[14]。

上述の説明でも明らかなように，Willy-Althof-Kindergarten の統合保育は，私達が一般的に考える障害をもつ子どもだけでなく，多様な国籍や言語をもつ子どもたちをも内包している。幼稚園はすべての子ども達と両親にとって，「多文化が出会う場所」なのである。

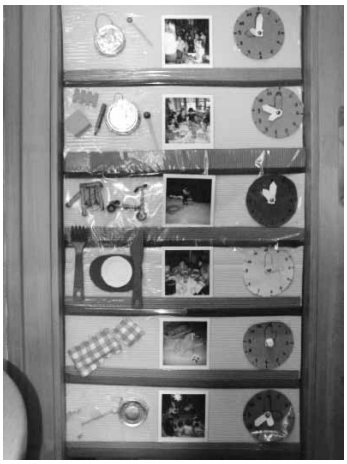

写真 1. すべての子ども達のために，分かりやすく日課が写真と時計によって示されている。

(2) プロジェクト活動

ミュンヘン市立幼稚園では子ども達の要求に合致したテーマを設定して，プロジェクト活動に取り組むことが多い。プロジェクトの中で，一人ひとりの子どもは興味をもった課題を見つける。子どもは全体の活動の中での関係性を理解し，プロジェクトの進行に対して貢献することが重要であることを学習する。また他の子ども達との話し合いの中で，自分の仕事の価値を認めてもらうことによって，さらに能力を発揮するように動機づけられる。子どもたちはプロジェクト型の活動に参加するなかで，すべての領域にわたる基礎的コンピテンシーを獲得すると考えられている。

Willy-Althof-Kindergarten の大きな特徴は，プロジェクト活動に取り組んでいることである。幼稚園の玄関を入った場所には，BEP で示されている陶冶及び訓育のための学習領域が書き込まれた「太陽」が掲げられている。保護者はこの掲示物を見ることによって，子ども達が現在取り組んでいるプロジェクト活動において何を経験し学んでいるのかが一目瞭然に理解できるのである。

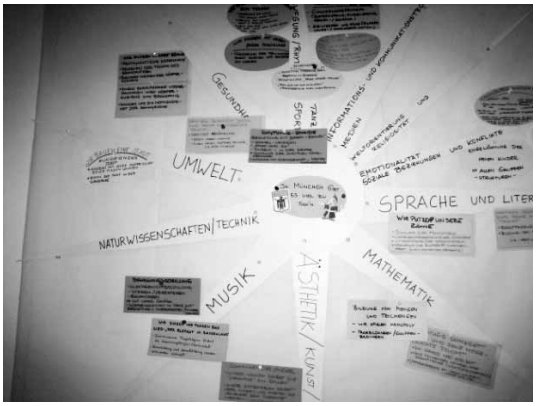

写真 2. 太陽の光線によって BEP における陶冶及び訓育のための学習領域が示されている。

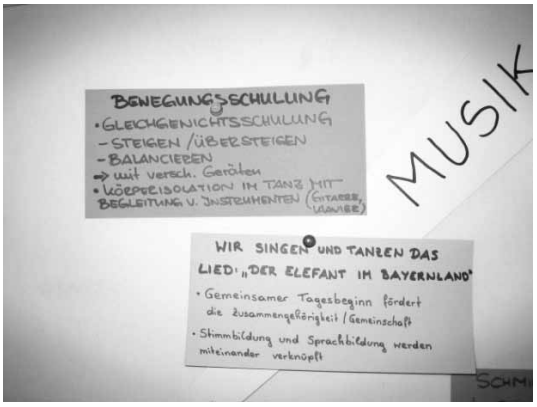

写真 3. 現在取り組んでいる活動は音楽領域に属していることが分かる。

Willy-Althof-Kindergarten でこれまで取り組んだプロジェクトテーマは，「騎士の時代」，「医学への冒険」，「私たちは幼稚園の子ども達の出身国へ旅をする」，「自然は教えてくれる」等である。園では就学をひかえた年長児たちのプロジェクトにも積極的である。異年齢保育が主流のミュンヘンの幼稚園において，年長児が同年齢グループで活動に取り組むことによって，成長を感じとり，能力を比べることを楽しむことができる。またやり遂げたことを評価したり，あらたに挑戦することを学ぶことができる。年長児のためのプロジェクト活動は，子ども達の発達と興味に応じて取り上げられ，深められていく。これまで取り組んだ年長児プロジェクトは，「速度」（クライマックスはスクーター免許証の獲得だった），「自然経験」などである。後者のプロジェクトの期間中，子ども達は教師と共に一週間森で活動をしたという。また他のプロジェクトでは，隣接している小学校を訪問したり，子どものためのコンピュータースタジオに行ったり，さらにバイエルンラジオ放送

局にゲストとして招かれたりしたという。

(3) オープン保育（Offene Gruppen）

Willy-Althof-Kindergarten のもう一つの特徴は，オープン保育である。オープン保育とは，一般的にはクラスを解体して，一人ひとりの子どもを教師全員が協力して保育するチームティーチングを特徴としている。子どもはどの教師のもとで，何をするかを完全に自分で選択することができる。その結果，年齢が違っても，興味や能力が共通した子ども達が，同じ場所，同じ教師のもとで活動することになる。オープン保育は，子ども一人ひとりの能力や要求に応じ，子どもの自由と自発性を尊重するという点で，及び異なる年齢の子どもや，異なる教師との交流が展開するという点で，日本においても早くから注目されてきた。しかし同時に，求める目標が高度であるため，容易な保育形態ではないことは否めない。例えば，オープン保育をするために子ども達の活動選択の幅が保障され，遊びが豊かに発展できる物的環境が必要である。また教師一人ひとりが園全体の子ども達の特性を理解した上で，緊密な連携がなければ成立しないのがオープン保育なのである[15]。

Willy-Althof-Kindergarten のオープン保育の特徴は，クラスを解体していないことである。一人ひとりの子ども達は自分が所属するクラスの一員であり，全体による朝の会の後は，毎日いったんクラスに集まってミーティングをする[16]。軽食や昼食は必ず自分のクラスで食べることになっている。このような方法によって，入園当初の子ども達は自分のクラスに所属しているという感情を抱くことによって，園生活に慣れることがスムーズになる。そしてそこを居場所として，安心して幼稚園生活の場を広げていくことができるのではないだろうか。

写真 4. オープン保育の時間帯に，各クラスで提供される活動が毎日分かりやすく絵で表示される。

Willy-Althof-Kindergarten では，朝の会で今日の活動（Angebote）が発表される。活動はクラスの枠を越えて行われる。しかし，いずれの活動も小グループで行われるので，一度に大勢の子ども達が参加することはできない。したがって，活動は場合によっては数週間にわたって，一人ひとりの子どもが参加の機会を獲得するまで実施される。また，子ども達は活動を選択した際に，教師から色つきクリップを受け取る。子ども達は所属クラス入口に掛けられているボード上の自分の名前（シンボル付き）にクリップをはさむ[17]。こうすることによって，教師は子ども達がどこで活動しているかを把握することができるし，子ども達は活動を選択することへの責任を担うことになる。金曜日には，自分のクリップの色を見ることによって，一週間自分がどこで，どの活動を誰としていたのかを振り返ることができるし，保護者もまたわが子の幼稚園での生活を理解することができるのである。そして保育者にとっては，翌週からのプロジェクト活動の計画や子どもたちへの援助の仕方を検討する材料になる。

写真 5. 子ども達はクリップを自分の名前にはさんでから活動を開始する。

写真 6. クリップによって子ども達の活動の場や仲間関係が分かる。

園ではオープン保育の目的を次のように表現している[18]。

子ども達に創造的な遊び空間，行動空間，出会いのための空間を開くために，私たちは幼稚園を内側へ，そして外側へ開く。

ⅰ．子ども達がもたらすもののために
—アイディア，願い，感情，気分
—違い
—学習態度
—予測できないこと

ⅱ．幼稚園内の創造的な遊び空間，行動空間，出会いのための空間のために
—私達のオープンクラスでは，子ども達が自分で，どこで遊び，どの活動に参加するかを決める。
—教師によって提案される活動（Angebot）は，一人ひとりの子どもの現在の行動能力に適応しており，共同活動に参加することによって発達が促進されるように準備され，構成される。
—遊びが場所によって制約を受けるのではなく，子ども達のアイディア自体が空間を決めるのだ。

ⅲ．幼稚園外における創造的な学びと出会いの空間のために
—私達は，人，自然，社会的出来事，文化的業績との出会いを求める。
—子ども達は出会いの現場で，現実を体験する。
・農家へ行く
・じゃがいもを収穫する
・入院している子どもを見舞う
・劇場の舞台，装置，化粧室を見学する
・空港を見学する
・バイエルンラジオ放送局を見学する
・屋台の果物屋で買い物をする
・市場，店，祭り，美術館，展覧会に行く，等

ⅳ．幼稚園へ人や出来事を招く
—芸術家
—通学路補導員
—消防局員
—警察官
—医者
—療法士
—子ども達のための応急処置コース，及び両親のためのウェルネスデーの開催，等

Willy-Althof-Kindergarten におけるオープン保育の「開く」とは，子ども達を園の内外へ開きながら，両親，祖父母，地域の住民，様々な職業や出来事との関係を結ぶといった特徴がある。

(4) デイリープログラム（日課）

子ども達の一日のおよその日課は以下の通りである。

7:00 ～ 8:00	働いている保護者のための早朝保育（事前申し込みが必要）
8:00 ～ 8:45	登園 自由遊び
9:00	朝の会（全員） 教師から今日の活動（Angebot）を発表 軽食（任意） 自由遊び / オープン保育（子ども達は自由に活動を選択する）
11:00	片付け 園庭遊び（冬場でもこの時間になると全員園庭で遊ぶ）
12:00 頃	園庭で昼の会，半日保育の子どもが降園（全員で輪になって歌をうたって見送る）
12:00 ～	昼食（自分のクラスで） 食卓の後片付けと清掃 歯磨き
13:00 ～	休息 / 昼寝
14:00	昼食付き半日保育の子どもが降園 自由遊び，園庭遊び，午前中の活動の継続 軽食（任意）
15:00	午後の会（終わりの会）
17:00	降園（金曜日は 16 時まで）

写真 7. 昼の会で半日保育の子ども達が降園する。

写真 8. 壁には手話が掲示されている。

3．観察

観察日は，2007 年 11 月 19 日，20 日，21 日，12 月 6 日，及び 2010 年 4 月 27 日であった。前述したように，Willy-Althof-Kindergarten の特徴はオープン保育をしていることである。筆者は他のオープン保育を導入している幼稚園をも見学したが，時として子ども達が未だ園生活に慣れていない場合など，子ども達が落ち着いて遊びに集中できない様子が見られた。しかし，Willy-Althof-Kindergarten では，子ども達は自分のクラスの一員としての所属感情をもちながら，活動を選択する際にクラスの垣根を越えて自由に行き来ができる。居場所を確保しながら，外へ開放していくという手法によって，子ども達は安心して園内で冒険できる。

(1) 朝の会

登園後，9 時頃に朝の会が全員で行われるのが日課である。場所は玄関を入った所にあるスペースで，子ども達のコート掛けにも接している。この場所は子ども達，保護者，保育者，訪問者らすべての人が行き交う集いの空間なのである。子ども達は円形のカーペットの上に保育者と共に座って，手話で挨拶をする。Willy-Althof-Kindergarten では，幼稚園の日常生活に手話を自然に導入している。保育者も子ども達も手話をまるで手遊びのように交わし合う。手話の導入は，6 年前に聴覚に障害のある子どもが在籍していたことがあり，その時から手話を子ども達と共に学んでいるという。手話は障害児のみでなく，ドイツ語の話せない外国人の子どもたちにも有効であると園長は説明してくれた。

保育者は,「今日は何曜日 ?」と全員に聞く。「月曜日 !」と子ども達は答える。挙手をして，指名された子どもがボードの所まで行って，目印を月曜日の位置に合わせる。その際,「11 月 17 日，11 月 18 日，11 月 19 日」のように順に言って，カレンダーの該当箇所に自分の名前を書く。保育者はすべての子ども達に向かって，ゆっくりと丁寧に手話を伴いながら発音する。朝の会だけでなくドイツの幼稚園では，保育者の問いかけに対して，子ども達は人差し指を立てて（挙手をして），指名されたら発言する場面が多くみられる。

写真 9. 朝の会を全員で行う。保育者から今日の活動が発表され，参加を希望する子どもが挙手をする。子ども達が幼稚園の一員として共同決定に参画する時間である。

写真 10. 朝の会で指名された子どもがカレンダーの今日の日付に名前を書く。

この日は，4 歳の男児の誕生会が計画されていた。この幼稚園では誕生会を月曜日か金曜日に挙行することになっている。子ども達は入園後最初の誕生会で教師から手づくりの王冠を贈られ，毎年子ども達の成長をシンボル絵によって表現してもらう。誕生会当日，教師は子どもの夢や願いを聞いて，王冠にシンボル絵一つを描く。この男児の場合，4 歳になったので，すでに王冠 4 面にかいじゅうや火山が描かれてあった。子ども達は王冠を誕生会後，家に持ち帰り，1 年後の誕生会に幼稚園に再び持ってくることになっている。朝の会では彼のために全員で誕生日の歌をうたった。

写真 11. 誕生会を迎えた子どもは夢や願いがシンボルで表現された王冠を被る。

(2) 誕生会

9 時 15 分頃に朝の会が終わり，男児のための誕生会を行うため，彼のクラスの子ども達と保育者は 2 階のホールに集まる。男児は保育者によって準備されたプレゼント（あらかじめ希望を聞いていたようだ）を 4 個開ける。中には卓球セット，コマなどが入っていた。この後，全員で宝物さがしゲームや人参抜き取りゲーム等をしてしばらく遊んだ後，クラスの部屋に戻って食事会が開かれた。食べ物は誕生日を迎えた男児の親が用意したようで，ハンバーグ，ソーセージ，パンとバターが配膳されてあった。この日は一日，男児は王冠をかぶってクラスの主人公なのである。

写真 12. 誕生会の食事

(3) 聖ニコラウス祭

聖ニコラウス祭に近いことから，幼稚園ではその日を迎える準備をしていた。11 月 20 日，教師によって提供される活動はニコラウスに関するものだった。教師は 6 人の子ども達と子ども図書室に集まり，ニコラウスのお話を語り聞かせる。そして布を一人ずつに配って，各自は家を作る。子ども達は様々な材料を使って，家を装飾する。家が完成すると，教師はろうそくを灯して，自らの作品を通して，ニコラウスの物語を子ども達と共に再現する。教師はニコラウスがどのようにして貧しい病身の父親を助けたのか，12 月 6 日はニコラウスが亡くなった日であることなどを伝える。

写真 13. ニコラウスの物語を教師と共に表現する。

11 月 21 日，統合保育クラスでは，クリスマス用の装飾に色をつける活動が提供された。子ども達はオープン保育であるのでクラスの垣根を越えて参加できる。完成したら，幼稚園のクリスマスマーケットに出品して，収益を貧しい子ども達のために使ってはどうかと教師から子ども達に投げかけられ，全員の承認を得た。

写真 14. 12 月 6 日は聖ニコラウスの日

写真 15. 朝の会が行われる玄関ホールには子ども達が作った家（アドベントカレンダー）が飾られ，毎日一つずつ扉を開けていく。

写真 16. 子ども達が作ったアドベントカレンダーに毎日一つずつ明かりが灯される。

ニコラウス祭は年に一度の楽しい行事であることに変わりはない。しかし，Willy-Althof-Kindergarten では，ニコラウスから何を学び，子ども達に何を伝えるかが十分に考え抜かれていた。本当の幸福とは何なのか，人への優しさとはどのようなものなのか，といった哲学的な問題を徹底的に考えることは幼児期において容易ではないだろう。日常の保育の中では考えることが難しいテーマも，年に一度の行事の中だから伝えることができるのではないか。聖ニコラウス祭はそのための絶好のチャンスなのである。筆者は後日，Willy-Althof-Kindergarten のニコラウス祭に招待された。子ども達，教師らと共にオリンピア広場へ歩いて行き，そこでニコラウスと出会った。言うまでもなくニコラウスとの出会いは，保護者や地域住民の協力によって実現したのであるが，朝からの一連の流れには不自然さがまったくなかった。保育者たちの周到な準備によって，子ども達はドラマチックな一日を満喫していた。

写真 17. オリンピア広場でのニコラウスとの対面

幼稚園に戻ると，朝の会を行う玄関ホールのカーペットの周りに，全員分のお菓子入りのニコラウスの赤い帽子が置かれてあった。これは子ども達がオリンピア広場へ出発した直後に，園長たちが迅速に用意したものである。

写真 18. 子どもたちへのプレゼント

保育室には，園長が伝統的なクリスマス菓子を準備し，テーブル上にはザイフェン地方の伝統的な木製人形が飾られていた。ドイツの幼稚園には，日本のような子ども達が練習しなければならない行事は存在しない。日常生活を彩る季節的な年中行事として実施されている。

(4) 子ども達による活動選択の自由

オープン保育を実現するためには，子ども達が活動を自由に選択し展開できるための空間・環境構成が必要である。Willy-Althof-Kindergarten では，保育室に様々な活動コーナーを設けている他，別室として，楽器を自由に使用できる音楽の部屋や，様々な工具を使用できる作業部屋が設置されている。

写真 19. 保育室の積木コーナー

写真 20. 保育室の変装コーナー

写真 21. 音楽の部屋では自由に楽器を使って演奏できる。

写真 22. 作業部屋には様々な工具が用意されている。

写真 23. 保育室の家庭遊びコーナー。人形は異文化間教育のための重要な遊具である。

4．インタビュー

幼稚園観察後，筆者は園長と副園長にインタビューを行った。

①国籍と人数

Willy-Althof-Kindergarten では，定員 65 名のうち，23 名が移民の子ども達（Migrantenkinder）である。国籍の内訳は，イタリア２名，インド３名，ハンガリー２名（1 人は両親のどちらかがドイツ人），ボスニア４名，クロアチア２名，トルコ３名，イギリス１名（両親のうちどちらかがドイツ人），ポルトガル１名，オーストラリア１名，トンガ１名，フィンランド１名（両親のうちどちらかがドイツ人），スロベニア１名（両親のうちどちらかがドイツ人），ポーランド１名（両親のうちどちらかがドイツ人）である。以上のように，Willy-Althof-Kindergarten では，定員の 30％近くが移民の子ども達で占めており，そのうち６名の子ども達がドイツ語の習得が十分でない。彼らには小学校入学の一年前からドイツ語の学習が義務付けられおり，週一回，２時間[19]，小学校か幼稚園でドイツ語の授業を受けている。就学前にドイツ語を習得することによって，小学校教育をすべての子ども達にとってフェアなものに近付けようとしているのである。

②オープン保育

既述したように，Willy-Althof-Kindergarten では創設時からオープン保育を行っている。しかし，それはクラスを完全に解体したものではなく，自分のクラスに所属しながら，オープン保育の時間帯にクラスの垣根を越えて自由に活動を選択する方法であった。園長によれば，クラスは子ども達にとって「故郷」（Heimat）でなければならないという。子ども達は，クラスから他の場所へと休暇（Urlaub）に出かけるという感覚を持つことが必要で，そうでなければ根なし草のように寄る辺ない存在になってしまうという。オープン保育では，今日，自分は何をしたいのかを自己決定し，幼稚園のすべての子ども達及び保育者と交流することになるため，社会性をも育てることができると話されていた。オープン保育で培われた能力や態度が小学校での生活や学習の準備にもなっているという。

③異文化間教育

Willy-Althof-Kindergarten は，外国人の子ども達の占める割合が非常に高い。園長によれば，外国人だから特別な教育をするのではなく，一人ひとりの子どもが，今，何を欲しているのかを理解して，援助することが必要であるという。「私が私になるためには，他者が必要」（am Du zum Ich werden）というポリシーのもとで，統合保育（Integration）に取り組んでおり，この理念こそ異文化間教育を支えていると話されていた。

Ⅲ．Willy-Althof-Kindergarten における子ども達の参画

Willy-Althof-Kindergarten における子ども達の参画は，子ども会議や子ども議会のような厳密に構造化されたものでなく，子ども達の日常生活において，自然な形で実践されていた。つまり子ども達の参画は，幼稚園の理念である「多様性」（Vielfalt）への信頼のもと，すべての人に開かれた保育の在り方としての統合保育と，子ども達の自由な選択を保障したオープン保育をとおして実現されていた。幼稚園の日常生活の中で，子ども達は自分で活動を選択すること，自己決定すること，責任を担うこと，協力して共同決定すること等の民主主義をつくる能力や態度を養っていると考えることができる。Willy-Althof-Kindergarten には多様な文化的背景をもった外国人の子ども達，障害をもった子ども達が共に生活している。幼稚園での日常生活自体が多様性に彩られているのであり，それはまさに民主主義への教育の絶好の環境なのである。

園長のワーグナー氏は 40 年間保育者として生きてきた方である。園長としての職務をこなしながら，子ども達が幼稚園に居る間は，オフィスにこもることなく，統合保育クラス担当の教師として，いつも子ども達と共に居られた。温厚でユー

モアのある人柄で，同僚保育者とも打ち解けた関係を築かれており，よき相談役になっておられた。園長は旧東ドイツ（DDR）の出身で，1994年までケムニッツで保育者をしており，その後ミュンヘンへ赴き，Willy-Althof-Kindergartenで11年間勤務してきたことがインタビューの中で分かった。副園長及び別の若い教師もDDR出身であった。園長によると，DDRの幼稚園教育は国家基準として教育計画が厳密に整備されており，教師の指導力が高かった。しかし，子ども達一人ひとりの興味関心を尊重した遊び中心の保育ではなく，集団による一斉指導が主であった。Willy-Althof-Kindergartenでは，子ども達の活動選択の自由を尊重する一方で，集団の一員としての自覚をも育てることに配慮されていた。その結果，ドイツ語能力が十分でない移民の子ども達が多く在籍している他の幼稚園に比べて，子ども達が非常に精神的に安定していた。それは保育者たちの高い指導力と，子ども達の自己決定及び共同決定の自由を尊重する保育観が見事に統一された結果だと捉えることができよう。

Willy-Althof-Kindergartenで保育士をしている女性は，子ども時代にアフガニスタンから亡命してきたという。Willy-Althof-Kindergartenをはじめミュンヘンの公立幼稚園では，子ども達だけでなく，保育者もまた，戦争や政治的な理由で祖国を後にしたケースが少なくないのである。多様性をチャンスととらえ，すべての人へ開かれたWilly-Althof-Kindergartenの保育のあり方には，苦難を乗り越えてきた保育者たちの願いが結実していると受けとめることができる。新入園児定員25名募集に対して，100名以上の希望者がある人気の高い幼稚園である。両親や地域から信頼されていることの証であろう。

今後もひきつづき，ミュンヘンの幼稚園における実践を通して，幼児期における民主主義への教育のあり方としての子ども達の参画について探究していくことにする。

謝辞

Willy-Althof-Kindergartenの園長ワーグナー氏をはじめ諸先生方，ミュンヘン市教育・スポーツ課のグレッチュ博士をはじめ関係者の皆様，そして友人のハデムート・フランクにこの場をかりて心よりお礼申し上げます。

註

[1] 筆者は，拙著「幼児期における民主主義への教育（Ⅱ）—『バイエルン陶冶—訓育計画』における『参加』（Partizipation）の思想と実践—」において，ドイツ語のBeteiligung及びPartizipationを「参加」と翻訳した。しかし今回は，子ども達が，企画や運営にまで積極的に関与する場合で，「参画」という訳語の方が文脈上ふさわしい場合は，「参画」という用語を使用することにする。

[2] 国連児童の権利条約第12条第1項では「締約国は，自己の意見を形成する能力のある児童がその児童に影響を及ぼすすべての事項について自由に自己の意見を表明する権利を確保する。この場合において，児童の意見は，その児童の年齢及び成熟度に従って相応に考慮されるものとする。」とあり，社会保障法典（Sozialgesetzbuch）第8項第1段では「児童ならびに少年は，成熟度に従って，自己に影響を及ぼす公的少年保護補導による決定のすべてに参加されなければならない。彼らは行政手続きにおいて，ならびに家庭裁判所と行政裁判所の手続きにおいて，適切な方法で，彼らの権利が顧慮されなければならない。」とし，バイエルン州乳幼児教育—保育法第10条第2項では「子どもたちは，発達に応じて，施設の日常及び施設の形成に参加されなければならない。」としている。

[3] Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen, Staatsinstitut für Frühpädagogik (2007). Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. Mannheim: Cornelsen, S. 401.（以下，BEPと略）

[4] BEP. S. 401.

[5] BEP. S. 401.

[6] BEP. S. 402.

[7] BEP. S. 402.

[8] BEP. S. 402.

[9] BEP. S. 403.

[10] BEP. S. 404

[11] 幼稚園の冊子等をもとに筆者が作成した。

[12] 必要があれば，早朝保育（7時から）に応じている。

[13] Städtischer Willy-Althof-Kindergarten (2000). Pädagogisches Konzept für die gemeinsame Erziehung und Bildung behinderter und nichtbehinderter Kinder (Integration) im Kindergarten, S. 10.（以下，Konzeptと略）
ミュンヘン市立幼稚園では各園ごとに教育上のコンセプトをまとめた冊子が作成されている。本研究で

は，筆者による保育観察，インタビューと共に，冊子も重要な資料として使用した。

[14] Konzept. S. 10.

[15] 待井和江編『保育原理』ミネルヴァ書房，1995 年，213－215 ページを参照。

[16] 2010 年 4 月に筆者が再び訪問した時は，火曜日から木曜日まで子ども達は登園後いったんクラスに集まって，朝の会をクラスで行っていた。

[17] いもむしクラスが黄色，カメレオンクラスが緑，ビーバークラスが赤のクリップである。

[18] Konzept. S. 12. 及び幼稚園作成の他の資料

[19] 移民の子ども達のうち，ドイツ語の能力が劣る場合，週一回，二時間のドイツ語学習を一年間 160 時間受けることが州で決められている。